



とにかく書いてみよう

ソフトバンクで iPhone3 を扱い始めた時からのユーザーとしては、ドコモに喧嘩を売っているかのような今の白戸家のテレビ CM をおもしろがって見えています。先日亡くなられた「広告批評」元編集長の天野祐吉さんだったらどんな切り口で、どんなユーモアに包んでこのコマーシャルのことをコラムに書いてくれたのだろうと勝手に思っています。実はこのベルゲン通信を書き始めた 12 年前から天野さんの文章には少なからず影響を受けていました。むしろあこがれ、そして目標としてきてこの通信を続けてこられたとも言えます。題材も使う言葉もエラそうだったり難しかったりしないけれど書いていることに芯がある。だらだらまわりくどい説明はないがユーモアがある。そんな天野さんのコラムをもう読めないと思うと寂しいかぎりです。

さて、文章を書くのが苦手という人が塾生にも多いのですが、小中学生それも女子どうしの「お手紙」交換などでは実にスラスラ書いている感じがします。たぶん伝える内容や使う言葉にパターンがあって、それにあわせているので悩まずに書けるのでしょう。それも考えてみれば当たり前のこと。何事も初めから創作するのは大変なことで、型があった方が取り掛かりやすいに決まっています。作文でもまず型を学び、それにあわせて書き慣れることから始めれば意外にすんなり書けるもの。ましてや千葉県公立高校入試の国語の中で出題される作文は毎年「前段で資料等から読み取ったことを書き、後段では自分の考えを書くという2段落構成」という型が指示されています。さすがに中3になると講習や模試で鍛えられてほとんどの人が書けるようになってきますが、小学生や中1・中2の頃からの準備の必要性も痛感します。

実は作文に限らず、ノートに要点をまとめたりレポートを書いたりする時の「箇条書き」という手法や「主語と述語がねじれない」という注意点や「起承転結、仮説・実験・論証」という展開などもすべて「型」なのです。読者は自分と違ってとにかく書いてみよう！